

子どもの社会参画とは…
子どもたちが、自分たちが暮らしている社会のできごとに意見を言ったり、関わったりすること

【子どもの社会性を育む必要性】

- 多様な人々が、それぞれのあり方を認めつつ、一緒に生活を営んでいく「共生社会」を生きる上で不可欠
- 社会の流動化が進んだことにより、様々な相手と柔軟に対応するためのコミュニケーション力が欠かせないものとなり、
 - ・他者と交流し交渉する力
 - ・新しい人間関係や社会状況に素早く適応できる力
 など、今までと異なる社会性も求められるようになってきている
- 現実としては、青少年に係る課題の根底を成す問題の一つとして、**子どもの社会性、コミュニケーション力の不足が指摘されている**

子どもの社会性は

- 低年齢(4～12歳くらい)のうちから
- 身近な地域で
- 年齢・立場・考え方の異なる人たちとコミュニケーションをとりながら
- 自分の役割を持って行動したり、意見を言うなど、様々な経験を積むことで

少しずつ育まれていきます

その実現のために重要となる視点を抽出し、実践・検証を行いました

- ①実際に行われている「キッズビジネスタウン」の取組の中での視点の実践(ふちひらつか 2011)
- ②「子どもがつくる子どものまち」の取組経験者による視点の検証(ミニヨコ OB・OG 会議)
- ③「かながわ 子どもの社会参画をすすめるフォーラム」を開催し、広く県民からの意見を聴取
- ④公募による中学・高校生8名の特命子ども委員を任命し、協議会への参画や実際の活動を実施

地域で子どもの社会性を育むために重要な 10 の視点

※ ○は、特命子ども委員から見た、特に大切な視点



- 1 大人がまず自ら行動し、子どもを巻き込む
子どもが参加するためのきっかけ・環境づくりをするために、まず大人が行動し、子どもを参加に導く
- 2 子どもと大人とが、互いによいパートナーとなって一緒に取り組む
子どもと大人はパートナーであり、共に生き社会を形成していくという意識を持つ
- 3 自分にできることを見つけたり、作り出していく気持ちを育てる
大人が介入しすぎることなく、子ども主体で、自然に社会へ参画するという意識を育てる
- 4 達成感・充実感を味わえる経験を増やし、子ども自身の潜在的能力を引き出す
自分で責任を持って取り組む体験、誰かに助けてもらう体験などを通じて、達成感・充実感を味わえる経験を増やすことにより、子どもの力を引き出し、自信を持たせる
- 5 異なる年齢・世代・立場の人が交流する
実際の社会と同じように、年齢、世代、立場が異なる様々な人との関わりを大切にする
- 6 実際の社会に関わりながら、社会への関心や具体的な行動につなげていく
現実の社会を体験する活動を通じて、社会への関心や具体的な行動につなげていく
- 7 全ての子どもに知ってもらい、参加してもらう
全ての子どもにとって関わりやすい企画とし、広く知らせ、参加に結びつける。また、身近な人の後押しや、自分にとってのメリットを感じることで、様々な活動に参加してもらう
- 8 協力者とは、互いのメリットとなる関係になるよう工夫する
協力者が増え取組が広がるよう、課題の解決などにおいて、互いのメリットとなる工夫を提案し、相手の理解を得る
- 9 子どもの気持ちを深く理解した上で、関係者を調整し提案できる人を取組に加える
子どもの考えを深く理解し、中立な立場を保ちながら調整役となる人々が必要である。そのための人材を育てるとともに、中高生や大学生の積極的な参加を実現することも大切である
- 10 大人や子どもが継続して参加できるように、活動の核となる場所を定める
地域の大人たちが関わりやすくなるよう、核となる活動場所を定め、息の長い活動となるようにする

10の視点をふまえ、子どもの社会性や社会参画の芽が育まれるよう、ツールを活用するなどして取組を促進します！

【促進のためのツール】

★「子どもの社会参画をすすめるための実践例・ポイント集」を活用した普及啓発



地域活動・子育て支援団体や学校等に配布

★かながわ子どもの社会参画をすすめるシンボルキャラクターを活用したPR



神奈川県 (ランちゃん)
・神奈川県で生まれた元気な女の子
・とくに横浜が好き
・で中華街によく行く

【取組の具体例】

★「神奈川県特命子ども地域アクター養成アクション」の実施

- 県内から募集した子どもをまちづくり現場へ派遣
- 第1回子ども地域社会参画促進フォーラムの開催 (H24. 12月予定)

県・NPO・企業の協働による新しい公共の場づくりのためのモデル事業 (平成 23・24 年度)

実現に向けた取組

協議会からの提言